

海外安全対策情報（平成30年7月～9月）

1. 治安情勢

(1) ブリスベン及びゴールドコースト地区

窃盗、薬物事犯等の犯罪発生率は日本と比較すると依然として極めて高く、邦人を被害者とする同種事案も散発しているほか、少年犯罪が深刻化している。

また、ゴールドコースト地区では性犯罪が大幅に増加しており、地元警察は、女性は夜間に1人で出歩かないよう呼びかけている。

(2) ケアンズ地区

ケアンズ市、タウンズビル市及びその近郊は州内においても犯罪率が高い地域であり、警察官の増員やパトロール強化等の治安改善努力が行われている。

2. 一般犯罪の傾向

(1) ブリスベン及びゴールドコースト地区

ア 観光地の駐車場等では、依然として車上狙いや置き引きが多発している。

イ 夜間の徒歩通行中に襲撃され、金品を強取される事案が発生している。

(2) ケアンズ地区

ケアンズ市及びその近郊では、邦人が被害者となる窃盗等が散見される。外出時や就寝時等に被害に遭遇しやすいので、家屋又はホテルの部屋のドア、ベランダ出入り口及び窓等については確実に施錠する。また、飲食店や公園などでの置き引き被害にも注意を要する。

3. 殺人、強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 2016（平成28）年1月3日の深夜、ナイトクラブ等が集まるブリスベンの歓楽街において、18歳の男性が見知らぬ若い男に頭部を殴られて死亡する事件が発生した。本件以外にも、深夜の歓楽街では暴行、窃盗、薬物関連事件等が度々発生していることから、十分注意する必要がある。

(2) 2016（平成28）年7月の深夜、ケアンズ・セントラル・ショッピングセンター付近で、邦人女性が男に襲われ、顔を殴られた上に羽交い締めされたところを通行人に助けられるという事件が発生した。男は、その事件の数時間前にも同じ場所で韓国人女性に対して性的暴行を行っていた。夜間に照明の少ない場所を徒歩や自転車で通行することは控える必要がある。

4. テロ・爆弾事件発生状況

(1) 2014（平成26）年9月、シドニー及びブリスベン郊外でイスラム過激派関連施設に対する家宅捜索が一斉に行われ、複数の逮捕者が出たほか、同年12月には、シドニーにおいて、「イスラム国」の影響を受けたとされる人物による人質立てこもり事件が発生した。

- (2) 2015（平成27）年4月及び5月には、メルボルン等でテロを計画していた若者が相次いで検挙されたほか、同年12月には政府機関を対象にテロを計画していたとして少年らが逮捕された。
- (3) 2016（平成28）年5月には、クイーンズランド州北部の町でシリアへの渡航を企図した男5人が逮捕されたほか、同年12月にはメルボルン中心部でクリスマスのテロ攻撃を計画した20代の男ら7人が逮捕された。
- (4) 2017（平成29）年6月には、メルボルンにおける人質立て籠もり事件が発生し、7月にはシドニーで航空機の爆破テロを計画した男4人が逮捕、11月にはメルボルンで大晦日のテロを計画した男が逮捕された。
- (5) 2018（平成30）年2月には、メルボルンで、「イスラム国」に感化された女性が居住先の大家をナイフで刺傷させる事案が発生したほか、6月にはクイーンズランド州南部の街でシリアへの渡航を企図した男1人が逮捕された。
- (6) 豪州政府のテロ警戒レベルは、引続き5段階中上から3番目のprobable（起こりそうである）とされているため、日頃から報道等を通じてテロ関連情報の収集に努めるとともに、周囲に不審な状況がないか注意し、特にスポーツの試合や屋外コンサート等、大型イベントの際には、通常以上に周囲に注意を払い、万が一不審者、不審物を発見した場合には、不用意に近づかず、警察への通報を行う。

5. 誘拐、脅迫事件発生状況

邦人が関係する事案は発生していない。

6. 対日感情

一般的な対日感情は概ね良好であり、現在までのところ、日本人や日本企業の安全に対する脅威となり得る問題は特段認められないが、歴史認識や捕鯨、環境問題等を捉えた抗議活動の動向には注意を払う必要がある。